

ツナグトレポーター養成講座

(1) 講座の目的

市民と同様の立場である「市民レポーター（「ツナグトレポーター」とした。）」が、市民に近い視点で情報を伝えることで、市民に芸術文化のハードルの高さをなくしてもらおう一助としたい。受講生同士の「交流・つながりを深める」ようなものとし、「隣のあなたへ」というコンセプトのもとに、レポートの執筆方法を学ぶ。また、今年度は執筆スキルだけでなく、交流にも重きを置くこととした。

(2) 講座概要

講座	大野城芸術文化情報サイト「ツナグトレポーター」養成講座
日程	令和7年10月5日（日）～11月30日（日）13時～16時 計4日間
参加申込人数	9名（男女比 4：5）うち、2名は事前に参加できない連絡あり ※なお、参加者数には含めていないが、昨年度の受講生（第1期ツナグトレポーター）も受講可能とした。
講師	坂口麻衣子氏、長津結一郎氏
内容	第1回 基本的なレポート作成スキルに関する講義 第2回 芸術文化事業見学（わたしが知ってる大野城のはなし 北地区の巻） 第3回 課題レポートの添削、講義 第4回 課題レポートの添削、振り返り

(3) 講座内容

講座では、書くためのポイント解説やレポート記事へのフィードバック等に加え、下記のようなことも行った。

- ・講座やレポーター制度、大野城市の取組の主旨、目的の説明。（コミュニティ文化課より）
- ・各回の冒頭に、個人が近況を話す時間を設けた。毎回、受講生は自分が話すことを考えて参加しているようで、参加者同士の人となりが見える時間となった。
- ・講座の冒頭に、「伝える言葉のレパートリーを増やす」「モノを別の言葉で例える」ことを目的としたワークを実施した。グループでのワークもあり、交流を深める時間となった。

(4) 結果

- ・市の事業等に日頃参加しないと話していた市民の参加が目立った。講座の目的や内容が明確にアナウンスできていたことが参加につながったと考えられる。
- ・参加動機について、芸術文化や書く事への興味の有無だけでなく、「社会参加したい」「リタイア後の活動を見つけない」といった動機が見受けられた。

- ・レポーターが継続して活動するモチベーションを向上させる一つの要素として、「交流」を図るポイントを講座内に設けることとした。講師には、「受講生が自分のことを話す時間」「初回の名札作成の時間」「ワーク」を取り入れてもらうことで、受講生同士の交流を図ることができた。
- ・講座冒頭の交流の時間やすべての講座で実施したワークを通して、話をする雰囲気ができあがっていたため、お互いのレポートへの感想や講座内容への質問など、積極的に発言されていた。
- ・講師と「ツナグトレポーター」としての役割、目標を事前に共有していたため、講座の中で、活動を意識した内容をお話いただいたことが、活動のイメージにつながり、受講生ほぼ全員が関わりたいと回答した。また、講座の中でも、受講生の言葉の節々に、レポーターとして活動することを意識した発言が見られた。

(5) 課題及び次年度以降の方針

- ・芸術文化を見る視点やレポートを書くルールなどについて、もう少し学びたいという声があった。初回にはパワーポイントを用いて、第2回～第4回は実践的に伝えたが、少し内容を掘り下げることが検討する必要がある。ただし、「上手に書く」ことをゴールにおいてもではないため、塩梅には注視したい。
- ・タイトルがわかりづらいため、わかりやすいものに変えたらどうかという提案が受講生からあった。必要に応じてタイトル変更を検討したい。
- ・ツナグトレポーターの主旨や目的は説明したが、市のサイトに掲載するということがレポーターの一部に「緊張感」を与えていることが考えられる。よりこの取組を踏まえた講座の募集となるよう。講座のタイトルやキャッチコピーを再考する必要があると考える。

○レポーターネームプレートづくり



○スライドを使用したポイントのレクチャー



○芸術文化事業の鑑賞（取材）



○講座を通して実施した言葉のレポーターを増やすワーク



○講座を通して実施した言葉のレポーターを増やすワーク



○レポートを受けてポイントを解説

